

令和6年度米子市総合計画審議会 議事録

[日 時] 令和6年7月29日（月）午後1時00分から午後2時50分まで

[場 所] 米子市役所4階 401会議室

[出席委員] 森田委員（会長）、伊坂委員、石田委員、内田委員、藏重委員、近藤委員、田後委員、常松委員、藤瀬委員、藤繩委員、本池委員、矢崎委員

[欠席委員] 深田委員（副会長）、小竹委員、高増委員、中村委員、森脇委員

[出席職員] 佐々木総合政策部長、下関総務部長、堀口DX推進監、長谷川教育委員会事務局長、松本防災安全監、赤井農林水産振興局長、石田文化観光局長、坂隱商工課長、宮本経済戦略課長、毛利地域振興課長、相野都市創造課長、倉本交通政策課長、角総務管財課長、渡部福祉政策課長、遠崎建設企画課長、横木下水道企画課長、小乾市民1課長、足立環境政策課長、斎木まちづくり企画課長、國谷こども政策担当課長補佐

[事務局] 中本総合政策課長、松本総合戦略室長、高橋係長

以下、議事概要（注：議事進行及び資料説明は省略しています）

1 開 会

2 新任委員紹介

3 市長あいさつ

本日は、米子市総合計画審議会にご出席いただき感謝申しあげる。米子市まちづくりビジョンは、約5年前に始動した計画であり、コロナ感染症拡大の前に、当時の地域課題を調べ、取り組んできたものである。コロナ感染症拡大により様々な活動が停止し、回復するまでに約3年かかった。その間、予定どおりの取組もあれば、予定どおりにいかなかった取組もあった。また、継続している課題等もある。人手不足の問題については、他の地域に引けを取らないよう取り組んでいく必要がある。米子市は、飲食店・サービス業が多く、これまで他の地域よりも経済対策に力を入れてきた。

また、地域活動（公民館活動など）が低迷し、フレイル対策等の高齢者対策についても制約を受ける中、衰えを感じた時期もあったが、アフターコロナ対策に取り組んできた。コロナ感染症対策の最前線として、学校の感染対策が最も大変だった。黙食が続く中、学校で初めて対面で食事を行い、給食が食べれるようになった際の子どもの笑顔を見て、大変可哀想な思いをさせてしまったと強く感じた。学校にはソフト事業を始め予算をかけてきたが、子どもたちの成長のため、これからも課題を一つ一つ精査し、重要な取組を取捨選択していきたい。結びとなるが、委員の皆様からは忌憚のない意見、お知恵をいただきたい。

4 会長・副会長選出

5 会長あいさつ

今年度は、米子市まちづくりビジョン（令和2年～11年）の計画年の中間年にあたる。これに

ついて、今までの取組状況や社会情勢の変化等を踏まえながら改定を行っていくものである。委員の皆様からは様々な角度から忌憚のない意見をいただきたい。また、円滑な議事進行となるよう委員の皆様には協力を願いしたい。

6 議事

(1)『米子市まちづくりビジョン』の総括（R2～R5）について

【事務局】資料説明（資料4）

【本池委員】

資料4の7項目、「子どもたちが健やかでたくましく育つまちをめざし」と記載があるが、障がいや様々な事情（多様性）がある方がおられる中で、保護者目線にたっていないように感じ取れる。

【教育委員会事務局長】

それぞれのお子さんの特性等に合わせた切れ目ない支援を、こども総本部でおこなっている。また、学校教育だけではなく、こども総合相談窓口や福祉の相談窓口（ふれあいの里総合相談支援センター「えしこに」）などにおいても支援を行っており、多様性や子どもの特性を十分に踏まえた上で記載しているということを理解いただきたい。

【本池委員】

この文言だけではその内容が読み取れない。工夫が必要と考える。

【近藤委員】

公民館活動における地域社会のDX推進とは具体的にどのようなものがあるか。

【DX推進監】

例えば、回覧板の電子化による効率化などが考えられる。

【近藤委員】

DXの推進を始めるとしても地域で人材が枯渇している、これについてどのように考えているか。

【DX推進監】

各地域でデジタルデバイド対策を行っている。

【地域振興課長】

補足させていただくが、ほぼ全ての地域（公民館）でスマホ教室の呼びかけを行っている。

(2) 第2次米子市まちづくりビジョン（仮）の策定に向けた検討の方向性について

【米子市】資料説明（資料5）

【近藤委員】

がいなロードの開通、にぎわい創出の取組などにより米子市が変わってきた実感はある。消防団員の減少については、都心部も含めて高齢化が進んでおり全国的に消防団の減少が見受けられる。公助も重要であるが、共助における実働部隊が地域の人々を助ける方法を真剣に考えていだく必要があると感じている。

【防災安全監】

共助はとても大切であり、消防団が大きなウエイトをもっている。消防団員の加入については市HP等で募集を行っているが、あまり効果がない。現在の消防団員は地域の繋がりがあった中で加入いただいている部分があると感じている。どのようなきっかけがあれば消防団員を増やしていくか引き続き真剣に考えていきたい。

【近藤委員】

地域のつながり、人と人のつながりが大切である。市役所の機能を維持しつつBCP対策についても取り組んでいただきたい。

【本池委員】

消防団活動において、もっと活動しやすいように市には働きかけて欲しい。現状、市民の目線（消防団の服装のまま店舗等に入ることへのクレーム等）により訓練後に、コンビニに立ち寄ることもできない。

【森田委員】

資料5の5項目「注目すべき政策課題について」は、今後の計画で実施することが前提であると考えてもよいか。

【総合政策部長】

注目すべき政策課題についても何らかの対応が必要であり、次期計画にも盛り込んでいきたいと考えている。その1つとして、例えば、気候変動に伴う災害リスクの高まりに対しては、防災・減災等の自然災害対策等に加え、脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガスの削減への取組みが必要と考える。

(3) 意見交換

【伊坂委員】

今後の取組方針に記載のあるとおり、引き続き、観光振興に力を入れて欲しい。皆生の灯り事業は完成したが、これから海岸遊歩道の整備がはじまる。米子駅前や米子城跡と同様にウォーカブルを推進するまちづくりのエリアの一つとして考えて欲しい。数値目標について、宿泊客数は、入湯税から算出していると思われるが、統計の取り方の見直し、または、別の統計があれば次期計画に加えて欲しい。

【石田委員】

女性消防団の確保については、活動のアピールが限られており厳しいと感じている。また、消防団の募集を問わず、IターンやUターン者への十分なアプローチができていないのではないか。フレイル対策は若い人たちから取り組んでいかないといけない。特に40代の方たちが重要、必ず誰しもが通る道であり、若い人にも考えて欲しい。

【内田委員】

コロナ感染拡大の影響により、公会堂前や美術館等における芸術活動が低迷した。来年春には倉吉市に県立美術館ができるので、人の流れを米子市にもってきてみたい。どのようにすればこれを活かせるか一緒に考えていく。

【藏重委員】

4点質問がある。女性の審議会の割合については、審議会の委員だけが達成しているのか。その他の会議等においても達成しているか。

【総合政策部長】

女性委員の任用については審議会に限った話ではない。その他の場面においても、若い人や女性の意見を取り入れる環境づくりに努めている。

【藏重委員】

保育園の待機児童ゼロとあるが、周囲にたくさん困っている人がいる現状がある。

【教育委員会事務局長】

ご自宅から近いなど、人気の場所については、希望どおりに入れない状況がある。細かなニーズが存在していることは課題認識しており、今後のニーズについても考えていく。

【藏重委員】

外国人宿泊数の数値目標があるが、実際に市内で外国人を見ない。皆生温泉エリアのみなのか、手ごたえがないように感じる。また、商工会議所において、インバウンド対策勉強会を開催してい

るが問い合わせもない。

【文化観光局長】

公共交通で通勤をしているが、外国人が多数乗車している場面を見かける。外国人宿泊者数については各施設から数値の報告をいただいており、5月末には1万人の宿泊があったと聞いている。外国人向けに観光情報の発信も行っているところであります、引き続き、取り組んでいきたい。

【藏重委員】

SNSの発信は各部門の業務として行っているか。また、全体的な取組としてインフルエンサーを使っているか。

【総務部長】

広報全般については秘書広報課が行ない、各個別のテーマにおける情報発信については、各課が秘書広報課と連携を図りながら実施している。インフルエンサーについては、例えば、観光分野など個々の事業において活用しているところである。

【近藤委員】

社会構造の変化がとても大きいと感じている。定年延長等により60歳から70歳までの人材が欠けている。地域活動に対しても、離れる人が増えた。また、一軒家から集合住宅に住む方が増え、自治会長についても1年で変わってしまう、そんな状況である。広報活動などに引き続きしっかりと力をいれることが重要であると考える。また、地球温暖化により、災害が起きやすくなつたいま、ハード・ソフト事業をともに進めることにより、災害に強いまちづくりを求める。

【田後委員】

福祉のまちづくりの一環として、市内の小中学校で福祉教育をしてもらっている。2030年問題として、認知症が益々増えていく。認知症の勉強をしっかりとしてもらい、周囲で認知症の疑いがある人に声かけができるような地域社会になって欲しい。認知症は、24時間以内に発見することが重要であり、引き続き対策を考えて欲しい。

【矢崎委員】

働く人への投資が必要、働く人が元気でないといい仕事ができない。認知症に関わる小規模経営の事業を行っていたが、1対1での対応が必要になる場合もあり、少ない人材では難しい。もっと人への投資を充実できないか。福祉の現場は疲弊している。少子化等による人手不足が退職への悪循環をもたらしている。保育士・介護士の配置については、人材の配置を適切に行って欲しい。また、高齢者の介護、訪問介護にも注目して欲しい。回覧板の電子化については、人と人のつながりを踏まえた上で考えて欲しい。荒廃農地の活用方法については、太陽光発電システム以外に活用方法がないか検討して欲しい。

【本池委員】

米子市は、子育てしやすく過ごしやすいまちであると感じている。ただし、大篠津・弓浜地域の高校生の通学のための公共交通機関が十分ではなく、保護者による送り迎えが大変である。また、中心市街地等と比べて大篠津・弓浜地域は取り残されている感がある。大篠津、弓浜地域だけでなく、中心市街地以外のそれぞれの地域においても暮らしやすくなるような取組を考えてほしい。

【藤繩委員】

あらゆる分野での人材確保対策について、米子市だけで完結することは難しい。地域住民を巻き込みながら取り組んでいく必要がある。また、総合計画の改定について、市の職員がまちづくりに対する想いやモチベーションをもって進めていくことが重要であり、幹部職員の皆さんにも考えて欲しい。そうすれば、必ず良いものできあがると信じている。

【藤瀬委員】

日本では、86万人が1年で亡くなっている、人口減少社会に突入している。今後、医療費が高くなると言われているが、医療業界も人材不足である。医師も減っていく。医師の働き方改革も課題である。医療現場は医師の使命感でなりたっている。働く時間を制限されると、これまでと同様の医療サービスをできるか。また、全国よりも米子市は二次、三次救急体制を担う病院が充実しているが、今後もこの体制が維持できるのか危惧している。様々な会議に出席し我々医療の世界の現状も知って欲しい、また、逆にこちら側からも市の今後の取組等について知って、協力できることはしたい。

【常松委員】

米子市版コミュニティースクールなど、子どもたちが積極的にチャレンジできる環境づくりが大切である。多くの成功体験をした子どもたちが、今後の米子市を元気にすることを期待している。

【会長】

注目すべき政策課題「人材不足・人材確保に」について様々な意見があった。クローズアップするとともに、工夫して対策を考えて欲しい。また、各委員からの意見も踏まえて今後の方向性について市で検討して欲しい。

【総合政策部長】

人手不足の問題は多くの分野で共通した課題であり、産業面ではまずは付加価値の高いサービス・商品展開ができるようサポートしていくことが必要。また、地元の若い方たちに、地元の企業や事業所を就職の選択肢として選んでいただける環境づくりも必要。子どもの頃から、地元企業の良さに気付いてもらえるよう気づきを与えていきたい。地域での人材不足の点についても発言をいたいたが、まずは地道に地域活動の参加を促す取り組みを続けていく。加えて、地域活動は自治会単位を基本としながら、自治会単位でできないことは、例えば地域での意向に応じ、もっと大きな

枠組みで課題解決を図っていけるような対策についても考えていかなければならない。観光面での話で、皆生温泉は引き続き市内の重要なエリアとしての位置づけを行うとともに、観光にかかるKPIについては、もっと分かりやすいものを設定したい。例えば、「消費額」でもよいかもしれない。弓浜地区の話については、市内全域での均衡ある発展を目指すことは当然のことである。当地区では秋口からコミュニティバス路線の再編を考えているところであり、そのほかの面でも各地の取り組みを応援していく。共生社会の実現に向けては、認知症、介護施設に関する対策についても考えていく。

7 その他（特になし）

8 閉会